

# 子どもの未来を守る / 児童虐待防止キャンペーン



11月1日、タカヤナギワンダーモール店で、市職員が11月の児童虐待防止推進月間にあわせてPRキャンペーンを行いました。ティッシュペーパーやリーフレットを配布し、子どもへの虐待防止を呼びかけました。

今年の標語は「189(いちはやく)ちいさな命に待ったなし」です。児童虐待は社会全体で解決すべき問題です。虐待かもと思ったらすぐにお電話ください。



店頭で子どもへの虐待防止を呼びかけました。

### 秋の火災予防運動

## 園児たちが 防火パレード

11月6日、秋の火災予防運動の一環で、だしのこ園の園児たちが防火パレードを行いました。これは大曲仙北広域市町村圏組合角館消防署田沢湖分署が防火意識を高めることを目的に行っています。

この日出動したら歳児22人の「だしのこ消防隊」。だしのこ園から男坂通りを通過してビフシ田沢湖店までを拍子木を鳴らしながら「火の用心！マッチ一本火事のもと！」と元気な声で呼びかけながら行進しました。

ビフシ田沢湖店では、買い物にきたお客さんに「気をつけてください」と声をかけながらパンフレットを手渡しました。



火災予防を呼びかける園児たちの元気な声が響きわたりました。



杉淵氏の説明を熱心に聞く来場者。

## 杉淵洋一氏が記念講演

### ファールブル昆虫記を訳した椎名其二展

11月10日、新潮社記念文学館で現在開催されている「ファールブル昆虫記を訳した椎名其二展」の記念講演が行われ、およそ50人が参加しました。

講師に愛知淑徳大学の杉淵洋一氏を迎え、「郷土・秋田が椎名其二に果たした役割」と題し、杉淵氏が椎名其二の実際に訪れた場所や軌跡について資料やスライドを用いて解説しました。講演終了後は、杉淵氏が展覧ブースで質疑応答や当時の歴史についてふれるなど、来場者と密に接した講演となりました。



講演する杉淵氏。

### ファールブル昆虫記を訳した椎名其二展

- 会期 令和2年4月3日(金)まで
- 休館日 月曜日(祝日は開館)、年末(12月29日~31日)
- 時間 9:00~16:30 (入館は16:00まで)
- 入館料 一般(高校生以上) 300円  
小人(小中学生) 150円  
※仙北市民は無料
- 問合せ 新潮社記念文学館 ☎43-3333

## カヌーとの出会い

佐藤選手は神代小学校4年生の時に母の職場の方の紹介で田沢湖で行われたカヌー体験教室に参加。そこで初めてカヌーに乗り、その楽しさを体験、魅力を感じたそうです。その後、神代中学校でカヌーに打ち込み、角館高校在学中も書道部に所属しながらカヌーの練習に励みました。

### 水上から見る景色と楽しさ

カヌーにはまった理由を「陸では見ることができない違った景色を水上から見るができる」と佐藤選手。テーパーパークのアトラクション好きということもあり「アトラクションのような楽しさがあり、やめられなくなった」

### 地元のコースで磨いた技術

小学校から高校まで角館町の大威徳山のふもと玉川や秋田わか杉国体が開催された生保内カヌー競技場で練習に励んできた佐藤選手。現在は、練習の拠点を海外に置き、1年のうちでも日本より海外で過ごす時間が長いそうです。それでも、日本に帰ってきた時は、地元のコースで練習しているとのこと、そんな練習環境について「日

### 応援を力に

オリンピック出場という最高の舞台への切符を手にした佐藤選手。「オリンピックに出場することができると、これまで色々な人に恵まれたから。皆さんから応援されているという実感がありとても嬉しい」と感謝の気持ちを述べました。最後に「自分がオリンピック

## 東京オリンピック出場決定！

### 佐藤彩乃選手が抱負語る

11月11日、カヌー・スラローム女子カナディアンシングルで来年開催される東京オリンピックに日本代表として出場する佐藤彩乃選手(秋田病理組織細胞診研究センター所属)が秋田県力又一協会の渡部卓理事長とともに市役所田沢湖庁舎を訪れ、門脇市長に抱負を語りました。



笑顔で報告する佐藤選手。

本各地のカヌーコースと比べ、いつもゲートが下げられ、水が豊富にある場所は珍しい。そういう面で、いつもいい練習ができた」と話します。

### 目指す理想の形

自身の課題について聞くと、技術面にふれ、「ボートをバタバタさせないことやゲートにピタリ入ること、漕ぐ時にもっと力のきいたストロークを打てるようにしたい」と答えました。また「10月に行われたNHK杯国際カヌー・スラローム大会では自分の思うような戦いができなかった。本番のオリンピックでは自分の力を発揮できるようにこれから頑張りたい」と本番に向けて決意を語りました。



門脇市長にオリンピック出場の決定を報告する佐藤選手(右)と秋田県カヌー協会の渡部理事長(左)。

スペインでの世界選手権を終えてそのまま秋田に戻ってきたという佐藤選手。秋田には2週間ほど滞在し、市役所を訪れた2日後には、合宿のためスロベニアに渡りました。

佐藤選手が出場する東京オリンピックのカヌー・スラローム女子カナディアンシングルは、7月29日・30日に東京都の葛西臨海公園の隣接地に新しく整備されたカヌー・スラロームセンターで開催されます。

「スペインで誰かを勇気づけることができるかもしれない。皆さんの応援を励みに、オリンピック本番までの残りの時間をレベルアップできるように頑張りたい」と力強く抱負を語りました。

全国老連会長表彰

【100万人会員増強運動特別賞】  
天寿老人クラブ 会長 伊東弘榮

秋田県知事表彰

【育成功労者表彰】  
武蔵野悠遊会 会長 熊谷勇一郎

【優良老人クラブ表彰】

さくらクラブ 会長 星宮忠清

秋田県老連会長表彰

【育成功労者表彰】  
門屋老人クラブ 会長 佐藤俊三

【優良老人クラブ表彰】

向陽クラブ 会長 岩城常雄

【育成従事者表彰】

西長野悠々会 会計 千葉正

【活動賞】

高野若駒クラブ 会長 藤原助一

秋田県老連会員増強運動特別賞

天寿老人クラブ 会長 伊東弘榮  
広久内寿会 会長 高橋光

第57回秋田県老人クラブ大会  
地域活動に貢献の個人や団体が受賞

10月3日、第57回秋田県老人クラブ大会が秋田市文化会館で開催され、地域の活動にあらたに功績のあった個人や団体が表彰されました。

11月5日、市役所角館庁舎に受賞報告に訪れた武蔵野悠遊会の熊谷勇一郎会長は「会員は減少傾向にあるが、これからも地域活性化のための一助となつて具体的な活動を進めていきたい」と話しました。

仙北市からは左記の方々が表彰されました。(敬称略)



右から仙北市老人クラブ連合会の藤原剛会長、高橋光さん、佐藤俊三さん、伊東弘榮さん、星宮忠清さん、千葉正さん、門脇喜六さん(岩城常雄さんの代理)、藤原助一さん、熊谷勇一郎さん、門脇市長。

みんなで森づくり

サクラの苗木を植樹

11月3日、旧角館スキー場跡地で市民グループ森林づくり活動支援事業として、サクラの苗木の植樹が行われました。

今年で11回目となるこの事業は、(株)花葉館・植栽グループが主催し、ふるさとのシンボリックな森林の再生を目的に、(公社)秋田県緑化推進委員会の支援や地域の方々の協力で行われました。

当日は、地元住民や花葉館の従業員など約40人が参加、用意されたオオヤマザクラ20本の苗木をきれいな花が咲くように心を込めて植樹しました。



参加者は協力して穴を掘り、サクラの苗木を丁寧に植えていました。

百寿

おめでとう  
ございます

11月4日、進藤恭治さん(角館町白岩)が100歳の誕生日を迎えられました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



中央が恭治さん。

第46回秋田県交通指導隊大会  
交通事故防止に貢献

10月25日、秋田市文化会館で第46回秋田県交通指導隊大会が開催され、仙北市から交通指導隊員2人が優良隊員として表彰されました。

式典終了後に開催を予定していた観閲式は、悪天候が予想されたため中止となりましたが、式典で隊員全員が交通指導隊員としての決意を新たにしました。表彰者は次の方々です。(敬称略)

◆7年以上勤続優良隊員表彰  
◆千葉忠昭(田沢湖地区)  
◆高橋栄(角館地区)



優良隊員として表彰された千葉忠昭さん(左)と高橋栄さん(右)。

東北地区社会教育委員連絡協議会表彰  
大澤博公さんが受賞

10月17日に盛岡市マリオス(盛岡地域交流センター、盛岡市民文化ホール)で開催された令和元年度東北地区社会教育研究大会で、仙北市社会教育委員の大澤博公さんが東北地区社会教育委員連絡協議会表彰を受賞しました。

大澤さんは、平成14年(旧西木村)から社会教育委員として、多年にわたり地域の社会活動や社会教育中期計画策定などに積極的に取り組まれ、



多年にわたり社会教育委員として地域に貢献されてきた大澤博公さん。

社会教育の振興と発展に尽力された功績に対し、今回の受賞となりました。



田沢湖地区(市役所田沢湖庁舎)で行われた訓練。

11月3日から9日まで「秋の火災予防運動」が実施されました。

初日には、仙北市管内3か所で行った訓練が行われました。

この訓練は、火災発生時に消防団員が迅速に災害現場へ駆けつけることができるよう、春と秋に行っているものです。

これから気温が低くなる時期は、空気の乾燥により火災が発生しやすい気象状況となります。火気の取り扱いには十分に注意しましょう。

秋の火災予防運動  
駆け付け訓練

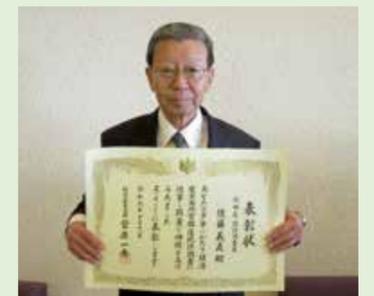
長年にわたる功績をたたえて  
令和元年度 秋田県統計功労者表彰

統計に関し功績のある個人および団体を表彰し、統計に対する認識を深めるものとして、11月8日に秋田県庁で令和元年度秋田県統計功労者表彰式が開催されました。

長年の統計調査における功績が認められ、仙北市から佐藤義直さん(角館町中菅沢)が経済産業省所管構造統計調査員として経済産業大臣表彰、雲雀潔さん(角館町藪田)、藤原京子さん(田沢湖神代)、熊谷三郎さん(田沢湖生保内)が各種統計調査員として秋田県知事表彰を受賞されました。



雲雀 潔 さん



佐藤 義直 さん

第2号  
仙北市新角館庁舎  
建設工事だより

ごあいさつ

日頃、ご近隣の皆さまには工事施工にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

11月の庁舎建設工事は、建物の土台となる基礎工事をを行いました。基礎の骨となる鉄筋組立を行い、コンクリートを流しこむための型枠を取り付け、コンクリート工事を4回に分けて実施しました。現在は基礎を埋戻す作業を行っています。

工事はおおむね当初計画どおりに進んでいます。これから寒さが厳しくなり冬期間の工事となりますが、寒さに負けないよう今月も元気に工事を行いたいと思います。

安全管理ならびに振動・騒音対策には十分注意して工事を行っています。もしお気づきの点がありましたら、仙北市企画政策課までご連絡ください。

工事写真

11月15日現在の庁舎建設工事の様子です。



【鉄筋型枠工事】

基礎地中梁の鉄筋を組み立て、型枠を取り付けています。これでコンクリート工事の準備は完了です。



【コンクリート工事】

2台のコンクリートポンプ車を使って基礎地中梁のコンクリート工事をしています。基礎は全4回コンクリート工事をしますが、写真は1回目の様子です。

発行元：仙北市企画政策課 ☎43-1112  
写真提供：(設計監理)株式会社佐藤総合計画 東北オフィス  
(新庁舎) 瀧神・小松・寺沢特定建設工事共同企業体  
(地中熱) 大曲・瀧神・寺沢特定建設工事共同企業体

12月上旬から1月までの主な工事予定

- ▶新庁舎建設工事 1階土間コンクリート工事、1階柱鉄筋工事、仮設工事(外部足場組立)
- ▶地中熱工事 ボアホール設置工事(地下100mまで掘削)、地中熱配管工事

地中熱とは？

地中熱とは、地表から地下200mの深さまでの地中にある熱のことをいいます。深さ10mより深い所の地中温度は、季節に関わらずほぼ安定していて、夏は外気より冷たく、冬は外気より暖かい性質をもっています。新角館庁舎建設地での地下100m付近の地中温度は通年で14.7℃となっています。この安定した熱エネルギーを地中から取り出し、冷暖房や融雪などに効率よく利用することを「地中熱利用」といいます。利用方法は五つに分類されますが、新角館庁舎ではヒートポンプシステムと水循環の二つの方法で熱エネルギーを利用します。

地中熱を利用することで節電・省エネによるCO<sub>2</sub>削減、燃料の削減が可能となり環境への負荷低減につながります。

地中熱を利用している施設は広く普及していて、全国で7,748件もあります。「SDGs(持続可能な開発目標)」を掲げている仙北市では、この地中熱を新庁舎に利用し環境対策へ取り組みます。

全景写真

11月15日現在の全景写真です。前回と比べると基礎地中梁ができて上がっているのが確認できます。



第55回全県花だんコンクール  
角館小学校が特別優秀賞

この度、角館小学校が「全県花だんコンクール」の学校の一部で特別優秀賞(秋田県教育長賞)を受賞しました。また、2年連続で特別優秀賞を受賞し、2年間県のモデル花だんに指定されました。

角館小学校では、毎年、秋田県南地域人権啓発活動ネットワーク協議会が主催する「人権の花運動」の花苗植栽を行っています。人権のお話とともに、一人ひとりの命、花の命の大切さを学んでいます。今年も、4・5年生がすすくすく育つてきれいな花を咲かせることを願いながらプランターにサルビアの花の苗を植えました。さらに、校内は技術員さんが管理のサポートをして育てた花々できれいに彩られています。



左から技術員の明平徹也さん、浦山英一(4年)、佐藤夏さん(5年)、村岡すみれさん(5年)、熊谷教育長。

り知らなかった。人権のお話を聞いて人権の大切さを知ることができてよかった」と話しました。また、花の管理を行っている技術員の明平徹也さんは「今後は夏花だんのほかにも、チューリップなどの春花だんにも力を入れ、花と子どもたちの接点を増やして自分に身近な花の大切さを学んでほしい」と話しました。

市長の  
まちづくり  
No.162  
日記

『別府のまちづくりに学ぶ』

仙北市長 門脇 光浩

先月、大分県別府市を訪ねました。温泉アカデミア(温泉研究会)での事例発表が目的です。ご存じのように別府は温泉の街で、大分県は「おんせん県」という異名もあります。歴史ある温泉街だからこそ見えてきた課題、そして挑戦する姿に多くのことを学びました。

温泉アカデミアは、複数のテーマについて、市民と市外からの参加者が一緒に議論するプログラムが中心です。例えば「タトゥー(入れ墨)文化のある外国からのお客さまも含め、入浴を規制するのかわるか、例えば温泉の効能を医学的な検証で証明する方法論、例えばワーケーション(仕事+休暇)を別府の街なかで行う化学反応など…。でも明確な答えのようなものは出てきません。ただし問題意識だったり可能性だったりを感じた参加者が、次に何か始めようとする温床になるとか、人的なネットワークの結び合いになっていることは確かです。

議を立ち上げて課題解決に向かったことがありますが。しかし、別府のそれは全く違い、市民(または部外者)が主体の自由な議論の場でした。市役所がもつた官製ミーティングとは完全に別物です。どうしたら別府のようになれるのでしょうか、研究が必要です。

ところで私は、15年前も別府を訪ねています。市内にある太陽の家の視察が目的でした。太陽の家は、パリンピック競技大会の父と言われた中村裕博士が創設した社会福祉法人です。企業誘致で障がい者雇用を進め、バリアフリー化で地区一帯を生活圏とする長い取り組みがあります。国は太陽の家の実践と成果を参考に、障がい者自立支援法を制定したと聞きます。その太陽の家の今を知りたいと考え、アカデミアの会場に向かう朝、フラッと立ち寄ってみました。突然の訪問でしたが、宮原実乃事務局長に丁寧な対応をいただきました。そして、「やっと今になり、保護より機会を」と提唱した太陽の家に、時代の理解が追いついたような気がします」と話していました。嬉しい答えでした。